第 352 回

広島県内水面漁場管理委員会議事録

(委員会開催日 令和 5 年 8 月 29 日)

第352回広島県内水面漁場管理委員会議事録

1 開催日時及び場所

日 時 令和5年8月29日（火）午後2時02分～午後3時08分

場 所 広島県内水面漁場管理委員会委員室
(広島市中区基町10-52)

2 開催告示月日及び招集者

告示月日 令和5年8月18日（金）

招 集 者 広島県内水面漁場管理委員会 会長 辻 駒 健 二

3 出席者

委員（8人） 辻駒健二、飯尾協、八谷輝行、山下頼信、小池勝、河合幸一郎、
中尾文治、宮林豊

県（5人）	農 林 水 産 局 水 産 課	課 長	木村 淳
	〃	主 査	木村 剛司
	西 部 農 林 水 産 事 務 所 水 産 課	主 査	武田 高明
	西 部 農 林 水 産 事 務 所 水 産 第 二 課	課 長	寺田 誠
	東 部 農 林 水 産 事 務 所 水 産 課	課 長	横山 憲之

事務局（3人） 福地次長、中林主査、青山技師

4 傍聴人(利害関係者等)

なし

5 議題及び報告結果

(1) 付議事項

第20号議案 ウナギの採捕に係る委員会指示について

(結 果) 原案のとおり承認された。

(2) その他

6 議事の経過

午後2時02分、事務局の福地次長が第352回広島県内水面漁場管理委員会の開会を宣言し、委員総数10名に対し出席委員は8名で、本委員会が成立していることを報告した。

続いて、議事録署名者に八谷委員と山下委員を指名し議事に入った。

【第20号議案 ウナギの採捕に係る委員会指示について】

議長 それでは議事に入ります。

第20号議案「ウナギの採捕に係る委員会指示について」を上程します。事務局から説明をお願いします。

福地次長 （提案の理由及び根拠規定を説明した。）

青山技師 （資料1-1及び1-2によりウナギの採捕に係る委員会指示について説明した。）

議長 ただいま事務局から説明がありました。委員の皆様のご意見、ご質問をお願いします。

宮林委員 うなぎの資源回復に向けた取り組みを行っている県は増えてきているということでしょうか。今回は2県増えている状況ということですね。

青山技師 令和5年にかけては千葉県が増えています。茨城県では令和4年からすでに実施されています。

宮林委員 それは全国的に増やしていこうという動きがあるのでしょうか。

青山技師 流れはそうだと思います。

福地次長 例年、内水面漁場管理委員会の連合会を通じて関係省庁に提案行動を行っております。その中で、ウナギの資源回復につきましても1つ項目を設けて提案を行っております。今回は特段ウナギに関しては新しいものはなかったのですが、ニホンウナギの資源回復を図る為、関係諸国・各都道府県・関係団体と連携をした資源管理体制を機能させ、いっそう推進をしていってほしいという提案をしております。農水省からは、シラスウナギの漁獲、うなぎの養殖管理、シラスウナギの流通そしてうなぎの住み場所の整備といった様々な方面からの管理と増殖の試みを引き続き取り組み、資源管理を三位一体で進めて参りたいと回答がありました。

飯尾委員 あまり獲れていないと説明がありました。内水面ではウナギの種苗放流をしていますが、今年は特に種苗が手に入りませんでした。九州から種苗が来ますのであまり高温にならない時期が望ましく、連休の前に済ませたいと思うのですが、例年終わる時期が後ろにずれておまして、去年は6月、今年は7月でした。サイズについても蒲

焼かと怒られるものもあれば、最後の方はものすごく細く小さいものもありました。種苗が手に入りづらい状況ですので、国が少しでも資源保護に役立つと言うのであれば継続していくべきだと思います。資料1-2の4ページに3月以降急激に採捕されたとありますが、具体的にはどこの国で獲れたか分かりますか。主な国ですと台湾や中国になると思いますが。

青山技師 申し訳ありません、確認をしておりません。

飯尾委員 分かりました。

議長 内水面においては委員会指示を発動しておりますが、海面ではなかなか協力していく状況ではありません。それは、うなぎを漁獲、販売している漁業者が多いということでした。川では禁止し、海に下ったものはよしとするのはどうかと話しをすることがあります。

飯尾委員 NHKの番組で拝見しましたが、うなぎの最適な生息地は川ではなく河口ということでした。縄張り争いに負けたものが川の上流へ登っていくということでした。海面の方でも協力していく必要はあると思います。

小池委員 この資料を拝見する限り県単位で取り組んでいこうとしているのに、広島県でも内水面と海面で協力できないのはおかしい気がします。

河合委員 資料1-1の近年7年間のシラスウナギ採捕量の表ですが、おおざっぱにみると減少しているなという感じがしなくもないですが、あきらかに減っている感じもしません。広島県の採捕量をみると平成29年が6.9キログラムで一番多く、平成30年、31年では減ったものの令和2年には4.6キログラムまで上がり、令和4年には3.9キログラムとなっています。順番に並べていけば年々減っているわけでもないため、うなぎの資源以外の要因が関係しているのではないのでしょうか。例えば採捕に関わる人口や方法といったものに変化はないのでしょうか。

福地次長 広島県で採捕をされているのが、漁協では福山市芦田川漁協です。放流種苗のために採捕されており、芦田川水系の上流の2つの漁協へも供給されています。そちらがおよそ10人前後で、明かりを照らし、たも網で抄うやり方をされています。もう一つは、黒瀬川で自家用の養殖施設で養殖するための種苗を確保するために共同でやられている方が2人おられます。広島県ではそのグループしかありません。福山市芦田川漁協では多少の人数の変動はありますが、大きな増減はなく平均10人前後でやられています。黒瀬川ではやなで採捕しており、設置場所が変わることはありますが、努力量はどちらもあまり変わっていない状態です。先ほど、今年の池入れ動向の中で3月以降に急激に採捕された結果というのがありましたが、広島県内の採捕でも遅か

ったようなことになっております。特にやなが良くなかったように聞いています。

河合委員 シラスウナギの採捕というと真冬のイメージがあります。高知県でも1月、2月くらいあまり釣り人がいない期間の深夜に海岸近くで抄っていますよね。3月は確かに遅いと感じます。明らかにぱっと見では減少傾向に見えないと思います。もう一つ資料1-2の5ページ目のところで、輸入量も減っていますが、ヨーロッパウナギはワシントン条約の附属書Iになってしまっていて完全に取引はできなくなってしまう気がしますが、これは平成21年からでしょうか。

福地次長 ヨーロッパウナギは現在絶滅危惧IA類ということになっていて、段階的な規制の発動状況は手元の資料では確認が取れません。資料にあるとおり、近年アメリカウナギの輸入が増加しているのは確かで、ビカーラ種も入ってきていると聞いております。おそらくニホンウナギもマリアナ海溝から流れてきているため、当然途中の国々で採捕されるということもあると思います。

河合委員 この輸入量の中身は、今はヨーロッパウナギではなく、アメリカウナギかニホンウナギの日本以外で獲られたのものということですね。

福地次長 そうですね。恐らくそういったもので、その内訳までは手元の資料では分かりません。

宮林委員 これは種苗供給量ではなく、製品として入ってくる量ですね。

河合委員 池入れの量ではないのですね。

福地次長 5ページの図は種苗ではありません。

飯尾委員 ワシントン条約の話が出ましたが、何年かに1回会議があると思いますが、ニホンウナギも対象になりそうな情報もありました。今の国の規制の背景には、そういった事情があったと思います。

河合委員 鹿児島県から南側の島々ではオオウナギがたくさんいますが、ニホンウナギに比べて味は劣ると思いますが、利用するといった動きはないのでしょうか。

福地次長 大きくなったオオウナギを利用するというのは聞かないですが、通常のニホンウナギのサイズのオオウナギを食べているというはあるかもしれません。

小池委員 鹿児島県の池田湖や長崎県に行くことがありますが、あまり見ないので小さな島にたくさんいるだけであって、絶対数は少ないと思います。

河合委員 もったいないので、利用できないのかと思います。

小池委員 池入れ量には密漁された量も含まれているのでしょうか。業者は密漁されたものでも買うと思います。密漁者が獲った量が池入れ量に含まれないのであれば、密漁者が多いか少ないか分からないと思います。池入れ量に含まれるのであれば、資料の数値

は正確だと思います。やはり密漁は多いと思います。

福地次長 水産庁ではまず採捕する側を管理するというので、採捕者から獲った量の報告を受けています。国際的な枠組みもありますが、養殖業者が池に入れる量も管理をしております。養殖業者ごとに池に入れる量を割り振ってその範囲内で養殖してもらうことで管理をしています。池入れをした量も養殖業者から報告がされていまして、これまで日本国内で飼育をされていないウナギや、中間育成をされた状態のものを買ったというものまでしっかりと分けて報告をされてきています。養殖業者からあがってくる池入れ量の報告と政府で管理をしている種苗の輸入の数量、そして採捕者からあがってくる国内での採捕量が一致をしていない状況があります。採捕の数量が圧倒的に少ないということがあると言われていています。我々も許可を出している立場ですので、しっかりと採捕量をあげてほしいと言われている状態です。

小池委員 16 ページにあるとおりですね。

宮林委員 法改正ですね。届出制にして流通も規制するという。

福地次長 養殖の方は、届出制から許可制になります。採捕の方も特別採捕から許可漁業とすることで報告を義務付けています。

宮林委員 それは特別採捕を継続して許可しているのでしょうか。

福地次長 特別採捕と枠組みは変わっていないのですが、根拠になるところが漁業調整規則の特別採捕の条項ではなく、漁業の許可の条項になります。

宮林委員 二つ許可を出していて、特別採捕を継続して許可している状況で、新しい採捕者を認めていないということですよ。

福地次長 そうですね。

宮林委員 養殖業者さんは1件でしょうか。

福地次長 養殖業者は2件に分かれていて、種苗の採捕は共同経営として一緒にされています。

宮林委員 黒瀬川のパナナを作られている。

福地次長 それはまた別でして、養殖はされていますが、採捕はされていないです。

小池委員 黒瀬川は漁業権がないですよ。漁業権の有無にかかわらず、河口にシラスウナギが上がってきますよね。そこで採捕するのはどうなるのでしょうか。瀬野川も同じだと思いますが。

宮林委員 特別採捕で県の許可をとらなければならないと思います。池入れの数量について県は管理をしているのでしょうか。

福地次長 県を通じて報告はあげていただいております。最終的に管理をしているのは国です。

宮林委員 マグロのように割り当てがあるわけではないのでしょうか。

福地次長 養殖業者ごとに割り当てがあります。

宮林委員 他の養殖業者から池入れ量をもたらしてきた形になるのでしょうか。

福地次長 そうですね。全国的に枠が動いています。

宮林委員 すごく難しいですね。

福地次長 そうですね。我々が把握していない養殖業者から急に広島県で養殖を始めますという問い合わせを受けることもあります。

宮林委員 そういった養殖業者は今後届出をするようになるのでしょうか。

福地次長 許可を受けてもらいます。許可を受ける際にウナギの池入れ量の割り当てをどこからもらってくるのかという話になり、そういった話は国で整理されます。

河合委員 採捕量は正確な値を示していない可能性もあるということですね。高知県では一般の人が小遣い稼ぎで獲っているような気がします。

福地次長 県によってはそういった実態もあって、同じ流通の規制にかかったアワビとナマコは令和2年から規制が始まっていますが、ウナギが遅れて令和7年からになるのはそのあたりの整理も関係しています。

八谷委員 密漁は常に監視をしないと分からない。数量で確認できるのは池入れ量で、採捕の量は厳しいと思います。

小池委員 成魚の採捕についてですが、一般の釣り人にどれだけ周知徹底しているかですよ。釣具店にそういったポスターがあるわけでもありません。(ウナギが)釣れても、放さないといけないと知っている人は少ない。県のホームページ等を見ている人であれば、この委員会指示について知っているでしょうが。毎年、委員会指示を出すのであれば、釣具店でも新聞社でも周知に協力してもらいたいと思います。

河合委員 特に漁業権がない河川だと獲ってはいけないという意識がないと思います。

小池委員 漁業権がある河川ですと組合の人から注意があると思いますが、漁業権がない河川で釣りをしても、警察や保安庁が注意するわけでもないと思います。

福地次長 ウナギの措置については県のホームページに掲載し続けており、コロナで釣りが注目された関係上、夏前になるとここでウナギを釣っていいのかという問い合わせがあります。中には県のホームページで(委員会指示を)知っている人もおられますし、そうでなければこちらから時期は10月から3月末でこういう取り組みをしているという話をしています。趣旨をお話しますと、だいたいの方はご理解いただけます。最初に規制を出した時には中国新聞も取材に来て報道していただきましたが、継続しているので注目度が落ちている状況です。釣具店等も含め周知については工夫をしたいと思います。それと海面についてですが、以前調査をしたときは定置網に一定

程度入り、それが稼ぎになっているので 10 月から禁止されるのは困るという意見が多く、すぐに取り組めないということでした。時間をかけ何度か調査をし、状況をみていきつつ働きかけを継続していきたいと思っています。状況はまた報告したいと考えています。

議長 他に何かありませんか。21 の組合の中でうなぎの漁業権を持っている漁協では徹底をしていただきたいです。採捕については、実際にどのくらい採捕しているかの報告はまちまちだと思います。たしかにスーパーではほとんどが中国産で日本産はあまりありません。土用の日がいつだからと言って、籠やはえ縄で採捕している組合員もおられる。そういうのが実際に採捕量にあがってくるかというところではない状況です。一昨日の話ですが、夜の 10 時頃に川に入って、LED のランプで照らしてほこ突きをしている人がおられました。結構そういう人をみかけますので、そういった方法で採捕している人は多いと思います。先日、「ぽつんと一軒家」を見ていたところ、60 歳過ぎの人が延縄をしていました。子供の頃にアブラハヤを餌にしてかなり山奥でやられていたということでした。そういった話を聞くと昔はそういった山奥の川にもウナギが生息していたのだなと感じました。現在は、漁業者も高齢化の影響か川離れが進んでいる状況です。他にご意見、ご質問がないようですので、第 20 号議案については、原案のとおり承認することよろしいでしょうか。

全委員 はい。

議長 異議なしということですので、第 20 号議案「ウナギの採捕に係る委員会指示について」は、原案のとおり指示することといたします。

続いて、「その他」に移ります。

議題としては、特にありませんが、委員の皆様の方から、何かありますでしょうか。

小池委員 漁協の権限について教えてください。可愛川でオオサンショウウオの調査をさせていただくために、漁協にお願いに行ったところ、組合長が了承してくれなかったという話を聞きました。去年の調査の際は了承していましたが、今年組合長が替わったことで了承してくれなくなったということでした。雑談でしたので、調査をする団体の正式名称は聞いておりませんが、漁協の権限は漁業権が設定されている河川に対してどこまであるのか教えていただきたいです。例えば、川遊びでしたらまったく問題ないと思います。正式な団体が正式に調査を申し込んでもダメと言えるほどの権限があるものなのかというのを教えてください。

福地次長 おそらくそんなに無体な調査をされることはないと思いますが、漁協が漁業権を管

理するうえで、そういう採捕の仕方は困るということがあれば控えてもらいたい又はやり方を考えてもらいたいということは言われる可能性はあるかもしれません。例えば、ます類の繁殖に重要な場所で水を止める調査などというのは問題があると思いますが、常識的な調査であればそこまでのことはいいのではないかと思います。調査目的が学術的なことやオオサンショウウオの保護ということも考えられますので、お話を聞く限りではどういう事情でそこまで言われているのかはわかりかねます。ただ、方法や趣旨があまりにも漁協の活動に合わないというようなことがあればそのように仰られる可能性はあると思います。

小池委員 川の水を止めたり、やなを設置したりするのはダメだろうと私も思います。ただ、オオサンショウウオの居場所を探して、オオサンショウウオの個体数や個体の状況等を調べるのに漁協の組合長がダメだと言える権限があるのかなと思いました。

議長 それはいいと思います。

福地次長 しっかりと趣旨が伝わっていない可能性があります。

小池委員 例えば、同じ請願書を県の内水面委員会と漁協に出すというのはどうなのでしょう。そうすればわかりやすいですね。

議長 以前、私のところにも小さな河川で子供たちを連れて調査するという話がありました。その際は3匹いたということでした。オオサンショウウオは漁業権がないため、可愛川漁協の組合長がどういう考えでダメと言ったのかは確認しないとけません。河川工事の際は予めオオサンショウウオの調査をした方がよいことをお伝えしています。オオサンショウウオがいた場合は採捕・保護し、工事が終わった後に川に戻すという対応をしています。その場合は県や市の教育委員会へ確認すると思います。

小池委員 調査の場合は、採捕して調べ、標識を付けるぐらいしか行わないと思います。前の組合長の際は了承していましたが、今の組合長に替わってから前回と同様に了承していただけなかったということでしたので、漁業権の制限の範囲はどこまであるのかと思いました。

河合委員 漁業権の対象になっていないため、はっきり言うと何の権限もないと思います。天然記念物の届出さえしていればいいと思います。

八谷委員 実際に調査場所が漁業をする場所で、かつ漁業への支障があれば問題ありますが、そうでなければ問題ないと思います。

中尾委員 そもそも許可を得る必要はないと思います。はたから見たらオオサンショウウオの採捕か魚の採捕か分からないので、前もって漁協に連絡さえしておけばいいと思います。了承を得ずに川に入って、オオサンショウウオの採捕をしても漁協は何も言

えないと思います。

議 長 県、事務局からは、何かありますか。

福地参事 前回協議させていただいた増殖指針については、ご指摘のあったゴギの放流への注意喚起に関する記述のうち、「遺伝的多様性が損なわれることがないよう、特に増殖を行う場合は天然の再生産環境を保全する措置を検討すること。」の部分で、「遺伝的系統が異なる種苗の導入により遺伝的独自性が損なわれることがないよう、安易な放流は行わないこと。」と改めました。

議 長 では、これをもちまして、第352回広島県内水面漁場管理委員会を終了いたします。ありがとうございました。

(午後 3 時08分 閉会)